

予報期間 8月16日から8月22日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 期間を通して太平洋高気圧が日本の南に張り出す。
- 18日は、低気圧がオホーツク海を北東に進む。
- 18日から19日にかけて、高気圧が北日本から千島の東に移動する。
- 19日から21日にかけて、低気圧が中国東北区からオホーツク海へ進み、前線が北日本を通過する。
- 21日から22日にかけて、低気圧が中国東北区から沿海州付近に進む。

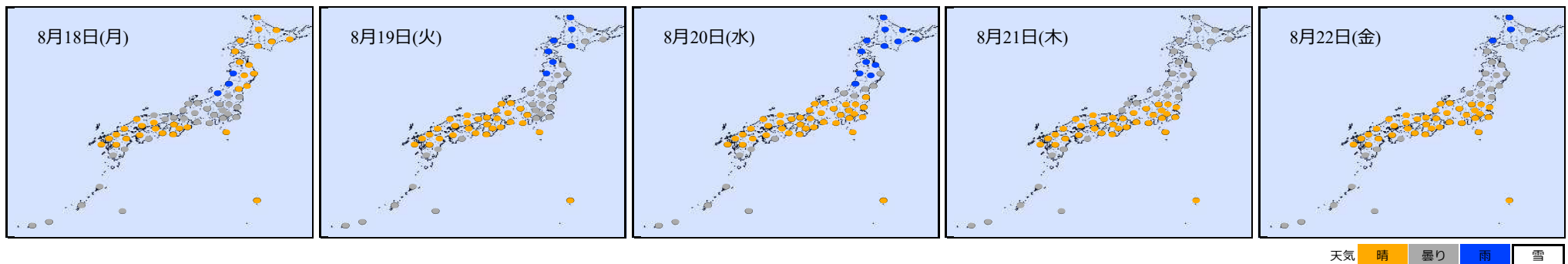
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 北日本から西日本にかけては気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

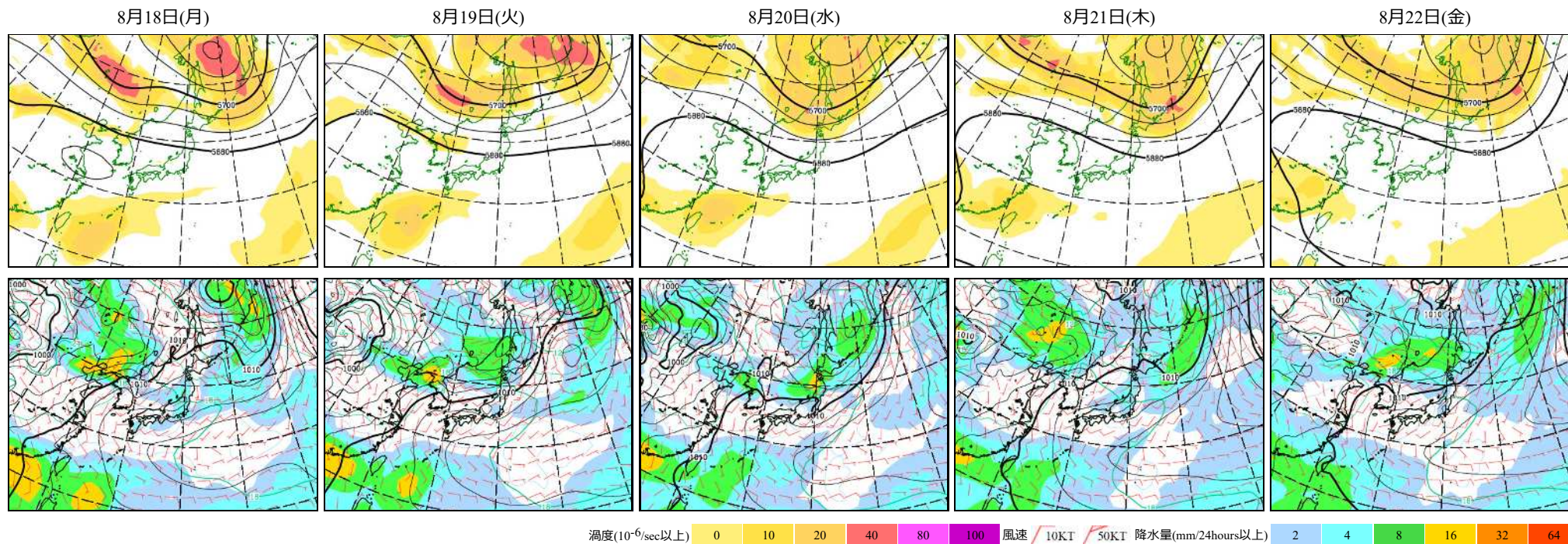
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

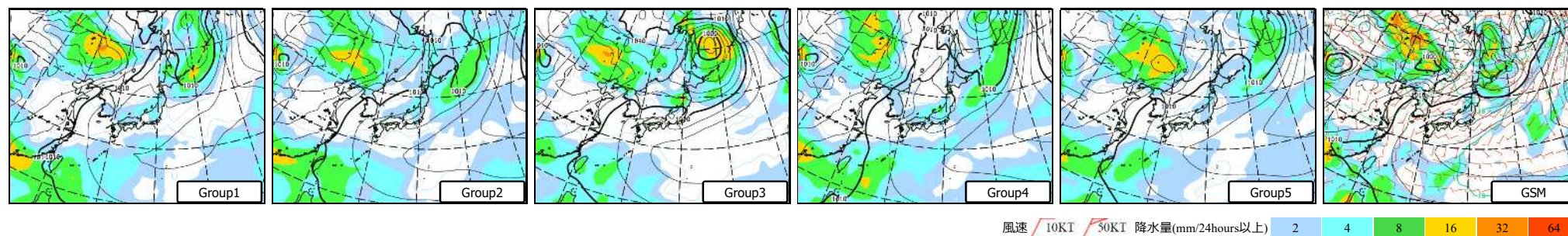


- 北日本は、晴れる所もあるが、曇りや雨の日が多い。
- 東日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 西日本は、晴れる所が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月21日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはないが、18日から20日にかけて中国東北区からオホーツク海に進む低気圧が弱くなり、日本の南の高気圧の張り出しが弱くなった。
- 降水確率ガイダンスは、19日から21日にかけて沖縄で高くなった。
- スプレッドは期間を通して値が小さいが、20日から21日にかけてオホーツク海を進む低気圧や、21日から22日にかけて中国東北区から沿海州に進む低気圧の位置はモデル間に差がある。
- 19日から21日にかけて、沖縄の南から東シナ海に北上する熱帯じょう乱を予測するメンバーがある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。